

# 生活科・総合的な学習の時間研究部

## 1 研究主題

学びをつなぐ生活科・総合的な学習の時間

## 2 研究主題について

### (1) 研究主題設定の理由

本研究会では平成 28 年度より研究主題を「学びをつなぐ生活科・総合的な学習の時間」としてきた。その意図は、生活科・総合的な学習の時間（以下、総合）の研究会が統合されたことを受け、生活科・総合の学びのつながりをもたせたいと考えたところにある。また、生活科・総合が共通して目指す子どもの姿は、学びを通して

- 本物と向き合い、本気で追究する姿
- 学び合い、高め合う姿
- 「生きて働く知識」を獲得する姿

であり、総じて、子どもたちが新たなものの見方や考え方を獲得し、生活を豊かにしたり生き方を考えたりしていくところにあると考えた。また、それらを実現するための手立てとして3つの「つなぐ」が有効であると考え、研究を進めてきた。

### (2) 研究主題の意図～「学びをつなぐ」とは～

#### ①実社会・実生活と「つなぐ」

子どもは自分が暮らす実生活や地域の中にある本物との関わりを通して、「～ってどういうこと」「～ってなんだろう」という興味・関心をもち、その追究を通して「～したい」と、思いや願いを高めていく。そんな子どもの思いや願いを引き出し、高めていくような対象とのつながりを大切にしていきたい。また、そのような対象との関わりを通して気付いたり考えたりしたことを、「だから、わたしは～していきたい」と自身の生活や地域をよりよいものにしていこうとする思いや願いへとつなげていきたい。

#### ②一人ひとりの学びを「つなぐ」

子どもが対象との体験的に繰り返し関わることを通して得られる気付きは、一人ひとり違う。そこで得た知識を共有することで、個の追究が質的に高まったり、課題に対する結論が新たな課題が生み出されたりする。さらに、他者の見方・考え方と自分自身の見方・考え方をつなげることで、対象に対する理解を深め、広げ、一人ひとりの中に実生活・実社会の中で生きて働く知識が形成されることを目指していきたい。そのためにも、一人ひとりの子どもの学びをつなげていくことが大切であると考え。

#### ③授業と授業、単元と単元を「つなぐ」

学びを深め、資質・能力を育成していくためには、本時や本単元の学習活動が、前時・前単元での体験や気付き、課題とつながっていて、子どもにとって意味のある学習活動になっていることが重要である。そこで、本時・本単元で気付いたことや考えたことが、次時・次単元の学習活動へとつながっていくように、子ども自身が思いや願い、見通しをもって、探究的に単元を展開していけるような指導・支援を重視していきたい。そして、単元の立ち上げ・終末においては、幼保小のつながり、生活科と総合のつながり、その中での学年間のつながり、さらに、小中のつながりについても、意識していきたい。

## (2) 研究内容

### ①単元構想

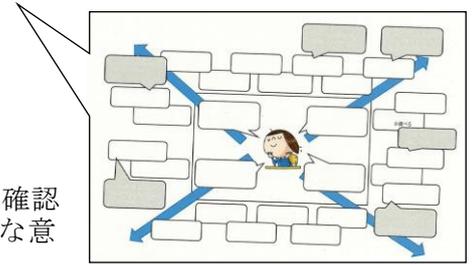
- ・材の吟味（何で学ぶか・何と学ぶか・何から学ぶか）
  - ・単元で育てたい資質・能力の分析・明確化（何を学ぶか・身に付けるか）
  - ・課題の設定及び子どもの思いや願い・思考に沿った単元の展開（どのように学ぶか）
- 【実現に向けた取組】ウェビングの活用、逆算ウェビング（パノラマップ）※2年目の取組

### ②授業づくり※下線：今年度の重点課題

- ・前時までの子どもの見取りに基づく期待する姿の設定
- ・期待する姿に向けた教師の手立ての明確化

#### 【実現に向けた取組】

1. 本時でねらう子どもの具体的な姿（＝「生きて働く知識」）の確認
2. どのためにどんな活動をどのようにするのか、そこにどんな意図があるのか。
3. そのためにどんな手立てをうつのか、そこにどんな意図があるのか。



## 3 研究方法

生活（1・2年部会）・中学年部会・高学年部の4部会に分かれて研究を進めてきた。年間を通してオンライン開催で行った。

## 4 年間活動報告

4月21日（水）	紙面総会
5月12日（水）	実践提案を通した研究主題理解
6月16日（水）	単元づくり研修
7月7日（水）	授業づくりの実践提案（単元づくり）
9月9日（水）	教育委員会共催講演会 大内 美智子先生によるご講演（Leafにて）
10月6日（水）	一斉研に向けた授業検討
11月10日（水）	一斉研に向けた指導案検討
12月1日（水）	一斉授業研究会（初のオンライン開催）
1月12日（水）	授業づくりの実践提案（授業づくり）
2月9日（水）	第二次教育研究大会
3月9日（水）	3月総会 今年度の実践の成果と課題

## 5 研究の成果と課題

### 〈成果〉

- コロナ禍の中、学びを止めずに、オンラインを活用して研究を継続できた。また、一斉授業研究会を初めてオンライン開催することができた。4つの実践を通して、子どもの姿から手立てを検証することができた。また、第二次教育研究会で引き続きその後の実践について聞くことができ、より深い学びとなった。Google ドライブの活用もできるようになり、新たな提案の仕方にチャレンジできた。
- 昨年度から引き続きパノラマップを活用し、「生きて働く知識」を子どもの発言レベルにおとして想定することで、より具体的な姿にせまるための子どもの活動や教師の手立てについて考えることができた。協議会でワークシートとして活用したりして、活用する頻度が増えた。

### 〈課題〉

- 昨年度同様、参加者が減ってきているのが現状である。参加者を増やす方法について考えていきたい。事前検討から市研当日に参加しているメンバーが変わらないところがあり、生活・総合のよい実践が広まっていかない。また、人材育成という面においても、課題が残った。
- すべてオンライン開催のため、会費の使い道に課題が残った。